

農地中間管理事業に対する担い手の声

「八幡浜市 果樹農業法人の意見」 H29.5.12

現在の栽培面積は14ヘクタールほどあり温州みかんが主体ですが、甘平やレモンも栽培しています。労働力は、家族4人とアルバイト1人の5人ですが、繁忙期には定年退職者の方など6人が応援に来てくれます。共選出荷では「早生はこの時期まで、中生はこの時期まで…」と集荷時期があり、収穫しきれなかった分は地方市場へ出さざるをえず、低い値段になってしまいます。自分のところは、共選ではなく直販なので、1月まで早生を販売できるし、2月に普通温州を売ることだって可能です。だから、この人数でこなせるのです。

それには栽培の方法が鍵になります。化学肥料は使わず、施肥は有機のボカシ肥料のみ。園地の地味と肥料にこだわれば、かなり省力化できます。ミカンは、花が咲いたのちに出た新芽が育ち、1枚目と5枚目の葉が同じ大きさになった頃に根が伸びて養分を吸収します。それに合わせて施肥も5月25日前後にしているのです。このため夏場の干ばつ時でも灌水はらず、コクのあるミカンが長く樹に置くことができるので、少ない人数でもこの面積をこなせます。

共選には出荷しませんが、負担金などは出しています。借りた園地にもスプリンクラーが設置されていて利用もしています。共選との関係は悪くはありません。共選ごとに農地流動化委員会があって役員さんが園地を回り、廃園になるところはそこを誰にやらせるか評定します。結果、「私にせよ」ということが多いので預かって再生しています。私が作らせてくださいと言ったところは、「それなら買ってくれ」ということが多く、公庫から資金を借りて買い取っています。

園地の貸借と売買は半々くらい。賃料は、かつて7万円/10aくらいでしたが、4万円に下がり、今では5千円から1万円の間になっています。賃料が落ちているのは、借り手がほとんど無いこともあります。自力で園地整備までできる人があまりいないことも原因でしょう。規模拡大する園地は、やはり使いやすい園地への改良が必要です。最近、実績をみて直接、話が持ち込まれることが多くなりました。2年後には長男が戻ってきて農業を始めますし、次男も帰って来るといいます。3世帯が農業で食べていくには規模拡大をせざるを得ないじゃないですか。まだまだ地域の園地は預かっていきます。

ただ、アメリカみたいに谷を埋めて段々畑を壊してという気持ちはありません。この段々畑が資産ですから。傾斜のきついところは車が入れる園内道ではなく、キャタピラー付きのクローラー運搬車が入る細い道を通します。クローラーなら角度があっても、ある程度は登りますから。